

丸山千枚田 周遊マップ



丸山千枚田へのアクセス

車で……
熊野市街地から約40分。国道311号風伝トンネル出口すぐを右折し、北山方面へ。

バスで……
JR熊野市駅前より熊野古道湍流荘線バスで(ホテル湍流荘方面)約35分、千枚田・通り峠入り口バス停下車後 徒歩約30分

熊野市地域振興課

〒519-5413 三重県熊野市紀和町板屋78
TEL 0597-97-1113
<http://www.city.kumano.mie.jp/>

(一財)熊野市ふるさと振興公社

〒519-5413 三重県熊野市紀和町板屋78
TEL 0597-97-0640
<http://www.kumano-furusato.com/>



丸山千枚田

類い稀な風景が人の心に美しさと感動を与えています。

丸山千枚田は、人が作りながら自然と調和した息を飲むような美しい自然は多くありますが、人の作り上げた物では数少ない。

この棚田がいつ頃造成されたかは不明ですが、西暦1601年(慶長6年)にはすでに2,240枚の田があったという記録があります。しかしながら、昭和40年代半ばから始まった稲作転換対策による杉の植林や昭和50年代以降の過疎・高齢化による耕作放棄地の増加によって、平成初期には530枚までに減少してしまいました。

地元住民は、「自分達の代でこの貴重な文化遺産を無くすわけにはいかない。素晴らしい景観と農耕文化を後世に残し伝えていかなければならない。」と立ち上がり、平成5年に丸山地区住民全員による丸山千枚田保存会を結成し、丸山千枚田の復元と保全活動が始まりました。

保存会結成後4年間で810枚の田の復元に成功し、1,340枚という日本でも最大規模の枚数を誇る棚田となりました。

1枚あたりの平均面積が約10坪と大変小さい田んぼばかりですので、機械には頼らずほとんどが昔ながらの手作業で守られています。



丸山千枚田は、紀和町丸山地区の斜面に幾重にも描かれた棚田で、日本の棚田百選にも選ばれています。

「わたくしたちは、ここに先人の英知と偉業を偲びこれを称えるとともに、千枚田に親しみ、愛しつつその保護に一層努力することを宣言し、この条例を制定する。」(熊野市丸山千枚田条例から一部抜粋)

熊野市では、丸山千枚田を後世に残すために平成6年に全国初の千枚田条例が制定されており、全市民が一体となってその保護に努めています。



3株しか植えることができない、丸山千枚田で一番小さな田んぼ。これは、水の落差をなくすための田んぼで、棚田ならではの先人たちの知恵がここにあります。

丸山千枚田の認定・受賞歴

- 第10回農村アメニティコンクール国土庁長官表彰・三重県平文化賞【平成7年11月】
- 地方自治法施工50周年記念自治大臣(団体の部)表彰【平成9年11月】
- 日本の棚田百選【平成11年7月】
- 「立ち上がる農山漁村」認定 農林水産省【平成16年度認定】
- 第4回棚田学会賞(平成19年度) 平成16年度～【平成20年8月】
- 第8回オーライ!ニッポン大賞(平成22年度)【平成23年3月9日】
- 第4回プロジェクト未来遺産登録【平成24年11月13日】
- 第11回田圃自然再生活動コンクール 農林水産省農村振興局長賞受賞【平成25年12月9日】

千枚田を守ってくれるオーナー

「千枚田を舞台に都市住民との交流を図り、一緒になって「千枚田を守っていこう」という趣旨のもと、ふるさと公社が平成8年度から千枚田の一部を利用して千枚田オーナー制度の運営を行っています。

現在では、丸山千枚田7.2haのうちの約1.6haをオーナー用として活用しており、毎年100組を超える申込があります。オーナーの皆さんに、昔ながらの手作業による田植えや稲刈りのほか、地域のイベント等にも参加いただいています。



丸山千枚田の虫おくり



丸山千枚田 歳時記

四季を通じて変化して行く「丸山千枚田」。いつの季節も美しく、自然に溶け込んだ人の営みは、お米以外にも多くの恵みを自然界の中に作り出しています。「人と棚田」日本古来の風景は、自然にやさしく共存共栄してきた日本の伝統的なふるさとの風景を今に伝えています。



春



春、畦塗り作業から始まり、5月中旬にオーナーによる「田植えの集い」が行われます。



夏



夏、草刈りに追われる日々。7月上旬には、千枚田に幻想的な光景が広がり、参加者を魅了する「丸山千枚田の虫おくり」が行われます。



秋



秋、9月中旬に待ちに待った「稲刈りの集い」がおこなわれます。収穫の喜びをみんなで楽しみます。



冬



冬、田んぼの準備が始まります。畦そりの仕事は田の畦を守る大切な作業で、重労働です。